

留学僧派遣育英会設立の意義

東 隆真

このたび、善光寺住職・黒田武志老師は、善光寺海外留学僧派遣育英会を設立された。

同寺開創十五周年を期して、海外に留学僧を派遣し、人材の育成をはかり、仏教を振興し、世界の平和と人類の進運に寄与せんことを願うてのことである。

これは、若き頃、燃える情熱を胸に、タイ国仏教寺院に留学し、白人伝道のためアメリカに渡った老師の貴重な体験が、その基調となっている。

未曾有の危機と不安と絶望を招いている地球上の現代において、不殺生を第一に標榜する世界人類の至宝・仏教のもつ意義と役割は、予想以上に、はるかに大きい。

これに対する日本仏教界の認識は、近年、かなり高まって来るとは言え、とくにこの方面の具体的な方策はと言えば、一、二をのぞいて、ほとんど全く着手されていないと見て過言ではなからう。

使命観と責任感をもった前途有為の真摯な仏教僧が、広く世界を舞台にして、刻苦勉励し、二十一世紀の輝かしい未来を創造してほしい。

それでは、そのための大事業を、いつ、誰がやるのか。

他に依存することのできぬ、しかし一か寺の住職の立場で、老師は、蹶然、宿願を実現すべく、その第一歩を、ここに踏み出そうとしている。

関係各位の絶大な御理解と御支援を、切に切に望んでやまない。

なかんずく、黒田老師の誓願と意気に感じ、仏教のため、世界平和のためには死んでもよいというほどの大願心をもつ高士の、一層の奮起を希い、育英会に積極的に応募してほしいものである。